

# 新型コロナウイルス感染拡大防止 心を合わせて力を一つに



宣言発令直後の閑散とした水澤寺境内(令和2年4月10日)



宣言解除後、徐々に戻りつつある参拝者(令和2年6月8日)

四月に新型コロナウイルス感染防止対策の「緊急事態宣言」が発令され、五月末までの間、「三密」回避のための外出自粛要請がなされ、学校は長期休業、会社はリモートワークが実施されてきました。天台宗も諸行事の中止、縮小・延期が続き、群馬教区も同様であり、書面による評決を実施し、宗務所所

願の法要が執り行われました。この法要は、全日本仏教青年会発案による法要で、長松寺御本尊阿彌陀如来御宝前にて、谷晃仁(南前橋部永福寺住職)全日本仏教青年会理事長が御導師を務め、群馬天台青年会会員出仕のもと執り行われました。

震災の起きた時刻、十四時四十六分に合わせ、長松寺住職が鐘楼堂の鐘を撞き、法要を開始しました。自然災害や、疫病は予想出来ない事であり、人々に大きな不安を与えます。しかし、一人一人が手を取り合うことにより大きな絆ができ、困難に立ち向かっていく勇気が生まれます。被災地の早期復興、新型コロナウイルスの早期終息を願い、合わせて災害物故者、病没物故者のご冥福をお祈り申し上げます。

す。その中で一番知られているのがヨーロッパで流行した「ペスト」(黒死病)です。六世紀の東ローマ帝国では二千万人の人が、十四世紀の流行時にはヨーロッパ全人口の三分の一が失われました。それ以降も何回か断続的に流行を繰り返しつつ現在に至っています。それにも負けずに生き残った人がいる訳ですから、その子孫である現代ヨーロッパ人は、ペストに対する抗体を有しているとのこと。そしてペスト菌を発見したのが、新紙幣に肖像が載る北里柴三郎です。

そして群馬教区各寺院では、感染症の第二波、第三波に備え、細心の注意を払い、檀信徒各家のお葬儀、ご法事、ご祈祷等をおつとめしています。お盆を迎える時期、檀信徒皆様には様々な不安もあろうかと存じますが、どうぞ各菩提寺ご住職に何でもご相談の上ご先祖のご供養をおつとめいただき、寺檀力を合わせ、この難局を乗り越えてまいりたいと思います。



発行日 令和2年8月1日  
発行所 尾町1261  
高崎市(362)5620  
TEL.027  
天台宗群馬教区宗務所  
発行人 祐俊  
編集責任者 浦村 孝  
印刷所 株式会社  
芝入印刷株式  
TEL.027 (253) 4937

昨年十月の一隅理事会において「一隅を照らす運動」群馬教区会長をご指名いただきました。ここに謹んでご挨拶を申し上げます。元より浅学非才の身であります。誠心誠意一隅運動のますますの発展のために尽力いたすつもりでございます。皆様には何卒、格別のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「隅を照らす運動」  
群馬教区本部長 門倉 政仁

捧げ、いまだ入院治療されている方々にお見舞いを申し上げます。また治療に当たられている医療従事者の方々、福祉施設で働いている方々等、多くの方々々に心より感謝申し上げます。

# 東日本大震災物故者追悼並びに 新型コロナウイルス終息祈願



法要の様子

令和二年三月十一日、西前橋部長松寺(長宗順住職)において、東日本大震災災害物故者慰霊並びに新型コロナウイルス終息祈願

願の法要が執り行われました。この法要は、全日本仏教青年会発案による法要で、長松寺御本尊阿彌陀如来御宝前にて、谷晃仁(南前橋部永福寺住職)全日本仏教青年会理事長が御導師を務め、群馬天台青年会会員出仕のもと執り行われました。

震災の起きた時刻、十四時四十六分に合わせ、長松寺住職が鐘楼堂の鐘を撞き、法要を開始しました。自然災害や、疫病は予想出来ない事であり、人々に大きな不安を与えます。しかし、一人一人が手を取り合うことにより大きな絆ができ、困難に立ち向かっていく勇気が生まれます。被災地の早期復興、新型コロナウイルスの早期終息を願い、合わせて災害物故者、病没物故者のご冥福をお祈り申し上げます。

## 残蠟ボランティアのご報告と継続のお願い



令和元年十一月より開始された残蠟ボランティアは、皆様のお気持ちにより、募集からは三ヶ月で七十五・五kgもの残蠟を回収する

ことが出来ました。ご協力誠にありがとうございます。令和二年二月に中之条町にある「萌希の丘ほほえみ工舎」へ、第一回の寄贈に行かせて頂いた際、私たちは多くの職員の方々より笑顔と感謝、驚きのお言葉を頂戴し、このボランティア活動の意義を多くに感じました。

「ほほえみ工舎」には体の不自由な方が三十名ほど利用しています。その方々が自分

のできる範囲の作業を班ごとに分かれ、丁寧に仕事をされています。私たちは今後も回収ボランティア活動を継続して行きますので、皆様のご協力を引き続きお願いいたします。

**予告**  
檀信徒祖山参拝研修会 中止  
浄法寺伝教大師報恩法要 延期  
並境内清掃奉仕活動  
伝道師補任祖山研修会 縮小にて調整中

### 編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの暮らしや社会を大きく変えました。仏教界にも影響を及ぼしました。葬儀は会葬者無しの家族葬や一日葬が増え葬儀後の会食をしないなど小規模化したこと、年忌法要の中止や延期が増えたこと、彼岸法要や施餓鬼会などの行事がやむ無く中止になったことでもあります。群馬教区でも一面、二面の通り、毎年恒例の行事がほとんど中止や延期となりました。したがって、今回の誌面作りも大変苦慮致しました。コロナ禍に於いて、感染拡大を予防するための新しい生活様式を日常生活に取り入れ、実践されている皆様のご健勝と一日も早いコロナウイルスの終息を願うばかりです。

### 群馬教区檀信徒会連盟役員

- 会長 神宮直仁 (富岡部・随應寺)
- 副会長 後閑賢二 (西前橋部・妙見寺)
- 塚越芳則 (高崎部・天龍護国寺)
- 川端 讓 (伊勢崎部・華藏寺)
- 宇津木 克彦 (南前橋部・光琳寺)
- 鈴木 清 (桐生部・清泉寺)





本堂内陣



石昌寺本堂



薬師堂

高崎市街地から鳥川に架かる聖石橋を渡り、吉井方面へ向かうと、この辺りは上野三碑「多胡碑」碑文の片岡郡内で、三島塚古墳・小祝神社があり、これに隣接して石昌寺があります。江戸時代の古書籍によれば、現在の前橋市元総社町の昌樂寺の末寺と記載されています。昌樂寺は、上野国分寺以前に建立の山王廃寺の寺域にあった由緒ある寺であり、

境内や墓地には、地元の人々によって、一六八九年建立の阿弥陀塔・一七八九年建立の地蔵塔が、建立年代不明の地蔵塔が二基あり、その他に六地蔵が新しく建てられ、本堂と薬師堂は檀徒の一致協力を得て、平成九年四月に新築されています。

高崎部常倍山  
南光院

# 石昌寺

高崎市石原町二四三  
住職 小安智順

## シリーズ群馬の寺々 第四十六回

**示寂**  
伊勢崎部 圓勝寺  
布施 祐廣 師  
令和2年2月28日

 令和二年 一月八日 東前橋部 應昌寺 山本 堯仁 師	 令和元年十二月二十三日 北前橋部 圓龍寺 眞木 興遼 師	 令和元年十二月二十三日 北前橋部 龍藏寺 眞木 興空 師	 令和元年 十二月九日 多野部 普賢寺 竹原 春祥 師
 令和二年 六月四日 南前橋部 善光寺 宮本 匡順 師	 令和二年 四月十三日 伊勢崎部 圓勝寺 布施 祐恵 師	 令和二年 四月一日 多野部 千手院 野平 修真 師	 令和二年 四月一日 西群馬部 東光院 小出 行観 師

### 新住職紹介

**人は冥加が大事**  
私たちは意識する、しないにかかわらず、神仏の加護を得て生かされています。有頂天にならず身を慎んで生きる事が大事です。「冥加」は冥利とも言い、知らず知らずのうちに神仏が授け

伝教大師は、東山道神坂峠の東西の麓に広濟院（美濃）、広拯院（信濃）という布施屋を建て、旅人の便宜を図り、そこでは治療も行われています。

法華寺は七四二年、諸国に国分寺・国分尼寺建立の詔が発せられた際、大和の総国分尼寺となり、法華滅罪の寺と称されていました。本堂には光明皇后を写したとされる十一面観音像が安置されています。

新型コロナウイルス蔓延の現代ですが、古来の日本では病人等に対し、聖徳太子や光明皇后は施薬院・悲田院などの施設を建て、保護・治療・施薬へと手を差し伸べています。それらは大阪の四天王寺、奈良の法華寺に在りました。



光明皇后を写した十一面観音

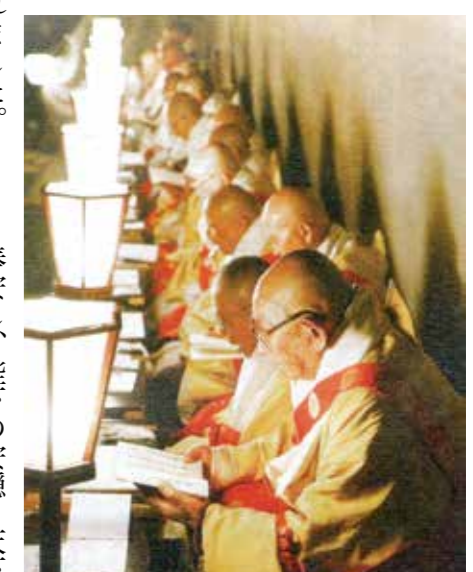
一隅を照らそう

# ほし御修法 復興後百回日の奉修



異例のマスク姿の出仕僧

コロナ禍の四月四日から十一日の八日間、比叡山根本中堂で、最高法儀「御修法大法」が、「七仏薬師大法」の秘法で厳修されました。今年、明治維新の神仏分離より一旦途絶えた御修法が大正十年に復興されてからちょうど百回目となり、群馬教区からは三浦祐俊宗務所長が参動いたしました。法要は、古来の伝統に従い、天皇陛下の御衣を根本中堂に



堂内の様子



祝下より記念の袈裟を受ける三浦祐俊宗務所長

奉安し、陛下の安穩・天下泰平・国民の豊かさと幸せを祈願し、天台座主を大阿闍梨として、各門跡や宗内から選抜された十七名の高僧により修法されました。薬師如来を本尊とするこの修法は、一切の病苦、一切の厄難を離れることができることから、除災与

天台宗より  
「伝教大師一千二百年大遠忌」事業について

伝教大師一千二百年大遠忌事業「不滅の法灯 全国行脚」は、令和二年四月二日「分灯式」の後、差し当たっては二ヶ月程度比叡山延暦寺にて法灯を護持保管し、行脚が可能となりました時期より開始することといたしております。しかしながら、全国の緊急事態宣言は解除されたとはいえ、新型コロナウイルス蔓延の第二波、第三波の発生の可能性、又宗議会及び宗務所長会からのご要望もあり、現段階での開始は困難であると判断いたしました。従いまして、現在予定されておりました日程については一旦白紙とし、

状況の推移を見ながら来春からの開始を別途に再考をいたします。

令和二年六月〜十一月に執行予定でありました教区法要並びに特別授戒会につきましても、上記同様の事情を踏まえ、令和三年四月以降に期間変更をお願いいたします。

---

祖師先徳鑽仰大法会 伝教大師 1200年大遠忌

**御本山教区法要・不滅の法灯 全国行脚の期間変更について**

教区法要奉修 (全教区奉修期間: 令和3年4月1日~令和3年9月30日)

群馬教区奉修日: 令和3年7月6日~7日の日程で本庁本山と調整中

実施要項: 感染症拡大防止の影響により内容縮小と人員削減にて奉修予定

---

**不滅の法灯 全国行脚** (全国4地区開催期間: 令和3年度中)

群馬教区開催期間: 他教区と調整中

実施要項: 感染症に警戒しつつ教区内各部を行脚予定

一隅を照らそう